

学年末になると、今年度のまとめ作業とともに異動の時期を迎え、教員たちは気分的になかなか落ち着かないようです。そこで今回は、予防の意味も込めてメンタルヘルスの観点から異動の際の当事者と学校側の具体的な対策のいくつかをご紹介します。

転勤先での不安

まず転勤先においては、休職にまで至るような様々な不安材料が待ち構えているということ。

「知らない地域に入り」、

「子どもや保護者の情報も得られないまま」、「信頼できる同僚もいない」、出

一 心の悲鳴に耳を傾ける 一

連載

来上がった職場に異動になるのです。些細なことですが、「コピー機の使い方がわからない」とか全校集会の並びせ方をどうしたら良いのか戸惑ってしまう等々。

気持ちを後押しする精神的な支えが必要

今年、転勤先で休職に入ったA先生に「どのような点でこの学校ではやっていけないかと感じたのですか」と聞いてみると、例えば、「子どもの指導に関して保護者からクレームを受けながら、自分としては正しい指導をしているつもりでも、一方ではこの指導で本当に良いのかどうかを確かめるべきがないので不安で仕方がない。そんな時に、同僚や管理職から「あなたの指導は間違っているから」とか「何かあったら私たちも出ていくから」

い指導をしているつもりで、一方ではこの指導で本当に良いのかどうかを確かめるべきがないので不安で仕方がない。そんな時に、同僚や管理職から「あなたの指導は間違っているから」とか「何かあったら私たちも出ていくから」

合には、職場のバックアップがなかったために「独りで戦って燃え尽きてしまったのです。このようなケースでは、どのような対処が考えられるでしょうか？職場のバックアップ体制を視野に入れながら、以下の3点について

転任者を「孤独」にさせない

「同調」することの重要性

今年、転勤先で休職に入ったA先生に「どのような点でこの学校ではやっていけないと感じたのですか」と聞いてみると、例えば、「子どもの指導に関して保護者からクレームを受けながら、自分としては正しい指導をしているつもりでも、一方ではこの指導で本当に良いのかどうかを確かめるべきがないので不安で仕方がない。そんな時に、同僚や管理職から「あなたの指導は間違っているから」とか「何かあったら私たちも出ていくから」

転勤者を支援する体制

①転勤して1学期くらいは、なかなか信頼できない同僚が見つからないのが

一般的です。そんな時は、元の職場の同僚や、同期の教員仲間等、「学校外に」愚痴をこぼせる相手を確認することです。その際「相手の迷惑にならないかな」と遠慮して、自分で問題を抱え込むほどメンタルを悪化させているようです。

り、「こう見えても私は〇〇の資格を持っています」や「私の家には犬が5匹もいます」のような要領で、自分の情報を事前に表示しておくことで共通点や新たな発見を通してお互いの距離感が近くなるからです。

れませんが、主な目的は、転勤者を孤独にさせないことを含む精神的なサポートです。休職者の話によれば、新しい職場の中に、もう一人、自分の考えに同調（賛同）してくれる教員がいれば、倒れる（休む）ことはほとんどないそうですから。

学校の生徒指導におけるルール（やり方）や教育機器の使い方等をレクチャーしておくのです。「人」に慣れると共に「環境」に慣れることも転勤者にとっては大切な要素なので、大切にしてほしいものです。

③転勤1年目の教員に対して、元からその学校にいる教員（転勤経験者ならなお良い）を1人世話役として手配することです。学校の規模により適任者が見つからない場合もあるかもしれ

②新年度最初の出勤日に、歓迎の意味を含めてお互いの「人となり」を知るための時間を設定して「緊張感をほぐしてから」仕事に取りかかるとをお勧めします。そこには2つねらいがあります。1つは小グループにな

新生活のスタートで転ばないためには

過去記事は<http://www.knews.co.jp>

執筆 土井一博 (どい・かずひろ) 日本教職員メンタルヘルスカウンセラー協会 (NAC) 理事 長 川口市教育委員会学校教職員メンタルヘルスチーム フカウんセラー